令和7年8月

日本医学会分科会長 殿
大学医学部長 殿
医科大学長 殿
大学附属研究所長（医系） 殿
日本医師会長 殿
都道府県医師会長 殿
国公私立博物館長 殿
関係機関長 殿

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会
理事長 安原 洋

令和7年度「医科器械史研究賞」受賞候補者推薦のご依頼

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会は、歴史的に重要な意義を持つ医科器械・医療機器を収集し、これを機器の開発・改良の研究資料として保存し、医科器械・医療機器に関連する科学技術の進歩に寄与することを目的として、日本医科器械学会（現：一般社団法人 日本医療機器学会）（日本医学会第34分科会）が昭和59年（1984年）に設立した財団です。

本協会は、医科器械・医療機器の開発・改良の歴史やその歴史に飛躍的な進歩をもたらす科学技術に関連する研究を推奨するため、平成4年から事業の一つとして、優れた研究者に「医科器械史研究賞」を授与してまいりました。つきましては別紙要項により令和7年度の候補者を募集いたしますので、貴組織・団体から候補者1名をご推薦いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究賞は、貴組織・貴団体から推薦された候補者のほか、自薦候補者も選考の対象といたします。本研究賞について貴組織・貴団体構成員各位にご周知をしていただきたく、併せてお願い申し上げます。

令和7年8月

令和7年度（第34回）
「医科器械史研究賞」および「青木賞」候補者の募集要項

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会

1．本賞の意義

本協会は歴史的に重要な意義を持つ医科器械・医療機器を収集し、これを機器の開発・改良の研究資料として保存し、医科器械・医療機器に関する科学技術の進歩に寄与することを目的として、日本医科器械学会（現：一般社団法人 日本医療機器学会）が昭和59年に設立した財団です。本協会は、医科器械・医療機器の開発・改良の歴史やその歴史に飛躍的な進歩をもたらす科学技術に関する研究を奨励するため、事業の一つとして表彰事業を行っています。

2．「医科器械史研究賞」

医科器械・医療機器の開発・改良の歴史やその歴史に飛躍的な進歩をもたらす科学技術に関する研究を奨励するため、平成4年から優れた研究者を表彰してきました。本協会理事会において、「医科器械史研究賞」選考委員会が推薦した表彰候補者の中から受賞者を決定します。本表彰は、受賞者に対して賞状と副賞としての賞金を贈呈します。賞金額は本協会理事会にて決定します。

3．「青木賞」

本協会の設立に大いに貢献された故青木敏三郎氏を記念して、平成9年に設けられました。上記表彰候補者の中から、特に将来が期待される研究者に、さらなる研究の発展を奨励する賞になります。本表彰は、受賞者に対して賞状と副賞を贈呈します。

4．応募資格

医科器械・医療機器（ただし、理化学器械、薬科器械、歯科器械は除く）の開発・改良の歴史もしくはその歴史に飛躍的な進歩をもたらす科学技術に関する研究を行った個人、グループまたは団体で、原則として、別記の推薦者（組織･団体）から推薦された者もしくは自薦者。

5．応募方法

本表彰は原則として、「医科器械･医療機器史研究賞」のみを受け付けています。推薦書が応募用紙になります。必要事項をご記入のうえ、参考資料を添付して当協会事務局にお送りください。

1）推薦書（自薦・他薦）

推薦者（組織・団体）は原則として、日本医学会分科会、大学医学部、医科大学ならびに医科系付属施設、日本医師会、都道府県医師会、国立市立博物館、指定の関係機関および所属機関の長とします。なお、自薦による応募も可能です。

本協会の所定の推薦書（自薦・他薦）を使用して、表彰候補者の研究課題名、推薦理由、略歴などを黒色のボールペン（消えるインクは不可）またはパソコンを用いて記入してください。自薦の場合もこの推薦書をご使用ください。

2）参考資料添付（必須）

研究実績を示す参考資料として、本研究に関連し、表彰候補者が筆頭著者または共著者となっている主要論文の別刷（10編以内、コピー可）または著書を添付してください。参考資料の添付のない推薦（自薦・他薦）は受理いたしません。

6．推薦の締切日

令和7年11月28日（金）午後5時・（必着）

7．選考の方法および表彰者の決定通知

本協会に設置する「医科器械史研究賞」候補者選考委員会の審査に基づき、表彰候補者に対する推薦の採否および採択された賞の交付金額を本協会理事会が決定し、令和8年1月下旬（予定）までに受賞者に文書で通知します。

8．受賞者へ

1）第101回一般社団法人 日本医療機器学会大会で受賞者を表彰します。表彰式の日時等は追って通知します。

2）受賞した業績の内容を一般社団法人 日本医療機器学会の学会誌「医療機器学」に掲載するため、同誌の投稿規定に従って「総説」または「原著」を作成し、所定の期日までに提出してください。

3）受賞した業績について、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの1年間に行った研究の実施状況の報告を、令和8年5月31日までに提出してください。この報告には期間中の研究賞金の支出についての納品書、請求書および領収書等を添付した会計報告書を含みます。

9．推薦書（自薦・他薦）の送付先・お問い合わせ先

一般財団法人　日本医科器械資料保存協会
「医科器械史研究賞」係　あて
〒113-0033　東京都文京区本郷三丁目39番15号　医科器械会館4階
一般社団法人 日本医療機器学会内
☎（03）3813-1062

「医科器械史研究賞」候補者推薦書（自薦・他薦）の用紙が必要な場合は、110円切手を同封して事務局にご請求ください。

「医科器械史研究賞・青木賞」受賞者一覧

敬称省略・所属先は受賞時のものです

		研究課題	所属先等	受賞者氏名
第1回	平成4年度	日本における臨床検査機器の発達変遷史	金沢医科大学臨床病理	寺畑　喜朔
		内視鏡の歴史－胃内視鏡を中心に	関東逓信病院 消化器内科	多賀須　幸男
		消化管内視鏡の歴史	防衛医大第2内科	丹羽　寛文
		消化管縫合器並びに吻合器の研究	平塚市民病院外科	中山　隆市
第2回	平成5年度	人工心肺の歴史	藤倉病院	藤倉　一郎
		ストーマ機器の歴史に関する研究	東京慈恵会医科大学 第1外科	穴沢　貞夫・他
第3回	平成6年度	該当なし		
第4回	平成7年度	耳鼻咽喉科診療器械史の研究	飯田耳鼻咽喉科医院	飯田　収
第5回	平成8年度	該当なし		
第6回	平成9年度	目で見る眼科医療器械史のCD-ROM化	奥沢眼科医院	奥沢　廉正
		(青木賞)眼科史における古資料の意義とその保存	永吉の眼科院	千葉　弥幸
第7回	平成10年度	実体験に基づく心臓並びに脳神経活動の 光学的計測機器開発史の研究	東京医科歯科大学 生理学	神野　耕太郎
第8回	平成11年度	人工腎臓(血液透析)の歴史の研究	原　学園	白井　洸
第9回	平成12年度	眼科における古資料の保存と活用のための史料館建設	民蘇堂野中眼科	野中　杏一郎
第10回	平成13年度	該当なし		
第11回	平成14年度	赤外線電子瞳孔計の開発	北里研究所病院	石川　哲
第12回	平成15年度	関節鏡視下手術用機器及びその使用手技の開発	I.K 関節鏡研究所	池内　宏
第13回	平成16年度	黄斑部局所網膜電図の開発とその後の発展	名古屋大学 医学部眼科教授	三宅　養三
第14回	平成17年度	該当なし		
第15回	平成18年度	旧陸軍軍医学校所蔵史料による医療史の再検証	陸上自衛隊衛生学校	木村　益男
第16回	平成19年度	電気手術器(電気メス)	㈱セムコ	青木　紀二
第17回	平成20年度	佐久間象山型電気治療機の解明	弘前大学教育学部教授	東　徹
		(青木賞)トレミキシンR開発史 ―ポリミキシンB敗血症性治療器開発と応用の歴史	滋賀医科大学 外科学講座教授	谷　徹
第18回	平成21年度	明治初頭日本における医療技術の移入と医療技術評価 医療器具:「焼灼電気器」「イクラセウル」を中心に	順天堂大学医学部 医史学研究室 准教授	月澤　美代子
第19回	平成22年度	該当なし		
第20回	平成23年度	該当なし		
第21回	平成24年度	国産第1号膀胱鏡に関する検証とその後の発展の史実	東京医科大学名誉教授	三木　誠
		(青木賞)眼科手術を支える器械・機材の発展経過、開発経過について	園田病院副院長	園田　真也
第22回	平成25年度	鮒田式胃壁固定具の開発 －胃瘻の歴史から見た鮒田式胃壁固定具の意義－	ふなだ外科内科クリニック 院長	鮒田　昌貴
第23回	平成26年度	十二指腸鏡と治療内視鏡機器の開発並びにその世界展開	昭和大学名誉教授	藤田　力也
第24回	平成27年度	マイクロ波手術器の研究	NPO法人マイクロウェーブ サージャリ研究会理事長	田伏　克惇
		(青木賞)IKARIカテーテルの開発	東海大学循環器内科教授	伊苅　裕二
第25回	平成28年度	画像強調内視鏡システムの開発・臨床応用と国際的普及活動	東京慈恵会医科大学先進 内視鏡治療研究講座教授	田尻　久雄
		(青木賞)銅人形の現存調査および史的研究	森ノ宮医療大学大学院 教授	長野　仁
第26回	平成29年度	わが国の病院船史における八幡丸の存在意義	自衛隊呉病院	柳川　錬平
第27回	平成30年度	該当なし		
第28回	令和元年度	(青木賞)ヒトips由来心筋細胞を用いた心筋再生医療における 移植デバイスの開発	慶應義塾大学医学部 循環器内科専任講師	金澤　英明
第29回	令和2年度	(青木賞)最小心血管治療(Slender PCI)デバイスの開発	東海大学医学部付属八王子 病院循環器内科　准教授	吉町　文暢
		(青木賞)ドップラ光干渉断層計網膜血流測定装置の開発と循環器疾患スクリーニングへの臨床応用-眼から全身を診る-	国立大学法人旭川医科大学 学長	吉田　晃敏
第30回	令和3年度	該当なし		
第31回	令和4年度	(青木賞)超音波エラストグラフィの非アルコール性脂肪性肝疾患(nonalcoholic fatty liver disease:NAFLD)への世界初の臨床報告からグローバル・スタンダード化に至る歴史的変遷	横浜市立大学附属病院 国際臨床肝疾患センター 准教授	米田　正人
第32回	令和5年度	歴史から学んだ高性能血液浄化器開発の秘鑰	早稲田大学名誉教授	酒井　清孝
第33回	令和6年度	(青木賞)血管内治療技術を応用した光照射デバイス・システム(ET-BLIT)開発 ～体を隅々まで照らす新規生体光デバイス・システムを開発～	名古屋大学大学院医学 系研究科　特任講師	佐藤　和秀